道徳よみものしりょう（ジレンマ）　自作資料

よし子のけいかく

なまえ（　　）

　よし子のクラスでは、そう合学習で「ろうじんホーム」をほうもんすることになりました。おじいさんやおばあさんといっしょに遊んだり、お世話をしたりすることがめあてです。老人ホームのお年よりは、子供たちとお話したり一緒に遊んだりすることをとても楽しみにしているそうです。元気が出るし明るくなるし、何と言っても本当に病気がかるくなったりなおったりすることもあるくらいです。子供は、お年寄りにとって「元気のもと」「けんこうのもと」なのです。
　そのことを聞いて、よし子たちは、さっそくクラスでどんなことをするのか話し合いました。そして、いくつかのグループに分かれて、それぞれが出し物をしたり、お世話をしたりすることに決まりました。お年寄りに元気になってもらうためにどの子もはりきっています。
　よし子の班では、魚つりゲームをすることになりました。が用紙で作った魚の口のぶ分にクリップをつけて、さおの先につけた磁石でくっつけてつりあげるゲームです。
　さっそくじゅんびを始めました。お年よりの数が多いので、たくさんの魚とつりざおが必要です。よしこたちは、できるだけ本物ににている魚を作って、お年よりの人たちをびっくりさせようと考えました。本当の海で魚をつったような気持ちになれたら、きっと楽しいにちがいないと思ったのです。そこで、よし子は、図書かんから魚のじてんをかりてきて、家で作り始めました。たくさんあるので毎日少しずつやっていかないとほうもんの日に間に合いません。
　日をおうごとに、できあがった魚の数がふえてきました。好きなテレビや遊びもがまんしていっしょうけんめいやったからです。計画より少し遅れていますが、２０ひきのめあてのうち、もう１５ひきできあがりました。
　いよいよ明日がほうもんの日です。今日５ひき作らなければなりませんが、夜までがんばれば、なんとか計画どおり２０ぴきの魚が用意できそうです。
　よし子が、おじいさんやおばあさんの楽しそうな顔を目に浮かべながら、家でさいごの５ひきをいっしょうけんめい作っていたときです。
「よし子さん、あそぼう！」
となり町に転校していったなかよしの友だち道子さんが遊びに来ました。道子は、先月よし子のクラスから転校していったのでした。大のなかよしだったので、道子が転校していってからよし子もとてもさびしかったのでした。道子も、転校してからまだ間がないので、新しい友だちや先生となかなかなかよくなれないとなやんでいました。２週間前、そのなやみを電話でうち明けられたよし子は、「つごうがいい日に遊びにきていいよ」と言っていたのでした。来たら道子は「好きななわとびや一輪車」で遊ぼうと言っていました。そういう理由で、道子は今日遊びに来たのでした。道子にとってよし子は、やはり「元気のもと」なのです。
げんかんで、道子が
「よし子、ひさしぶりね。いっしょになわとびや一輪車ができると思うと、きのうはねむれなかったくらいよ。近頃外で遊ぶことがあまりないから楽しみだなあ」
とうれしそうに言うのでした。
　これから道子と一緒に遊んだら、とても計画の２０ひきの魚を作ることはできそうにありません。でも道子のうれしそうな顔を見たら「今日は忙しいので、遊ぶことはできない」と断ることもできそうにありません。計画通り根気強くがんばろうと思っていた気持ちがゆらぎます。
　「魚づくり」という決めたことを最後までやり通そうか、それとも道子と一緒になわとびや一輪車をしようか、よし子はどうしたらいいか迷ってしまいました。

（　　）道子と一緒に遊ぶ　　（　　）魚を最後まで根気強く作る

最後に、自分は、どのようにしますか？そしてその理由はなんですか？